

# Blitzen Times

April.2026

## Vol.102



### Race Report

- 2026.4.4 JBCF 真岡芳賀ロードレース
- 2026.4.5 JBCF 宇都宮清原クリテリウム



## ホーム2連戦でつかんだ 悔敗からの凱歌

今季ホーム初戦となった真岡芳賀ロードレースは、岡篤志の渾身の追走も実らず5位に終わった。

一夜明けて宇都宮清原クリテリウムでは、チーム丸のトレインから岡が力強いスプリントで優勝。

悔しさを晴らした2日間の戦いを振り返る。

今シーズン最初のホーム戦となった栃木2

連戦は真岡芳賀ロードレースから幕を開けた。

7.2キロを17周する計122.4キロのコー

スは決定的な山場に乏しく、あらゆる展開に備えた総合力が問われるレイアウトだった。

Astemo宇都宮ブリツェンは谷順成、増田

成幸、フオン・チュンカイ、岡篤志、宮崎泰史、

菅野蒼羅の6名で臨み、「逃げにもスプリント

にも対応し優勝を狙う」との方針でレースへ

向かった。

序盤は飛び出しと吸収を繰り返す神経戦と

なり、ヴィクトワール広島のアタックなどで

レースは何度も揺さぶられたが、決定的な形

には至らない。

中盤、同チームのルーク・バンスが単独

で大きくリードを広げると、集団はキナンと

ブリツェンを中心にコントロールしつつ追

走する展開へ。終盤には先頭に有力勢が合流

し、ブリツェンは「前に追いつかなければ

勝負権を失う」厳しい状況に追い込まれた。

ここで単騎で追走の重責を担ったのが岡

だった。強力な牽引でついに先頭集団へプ

リッジを成功させたものの、その代償として

他の味方選手はドロップし、岡1人で勝負に

臨む形に。

ラストはスプリントに持ち込んだものの、

追走で脚を大きく削られた岡は伸びを欠き、6

着(オープンを除き5位)フィニッシュ。捨て

身になりすぎて惨敗だった」と語った言葉に

は、ホームで勝ち切れなかった悔しさと、勝

負への強い責任感かにじんんでいた。



一夜明けた2日目の舞台は、宇都宮市清原工業団地周回コースのクリテリウム。メンバーは、増田成幸・フオン・チュンカイ・沢田時・岡篤志・武山晃輔・宮崎泰史の6名。

2・4キロを25周する60キロのレースは、最終コーナーからフィニッシュまで200メートルに満たない新レイアウトとなり、どこで隊列を組み、どうコーナーへ入るか」が勝敗を左右した。

ブリツェンは岡をエースに据え、トレインでゴール前へ運ぶプランでレースに挑戦。

レースは大きな逃げが決まらないまま周回を重ね、終盤にかけて各チームがポジション争いを激化させる中、ブリツェンは前方を固めて主導権を握る。ファイナルラップで逃げが吸収されると大集団スプリントとなり、最終コーナー手前からフオン・チュンカイ、武山、岡の順でトレインを形成。

向かい風のラストストレート、岡は早掛けを避けて一呼吸置き、ややまくり気味にスプリントを開始すると一気に加速してライバルたちをねじ伏せるフィニッシュを決めた。「きょうは自分のスプリント一本というレース。みんなが風よけになってくれた」と岡が語ったように、この勝利はチーム全員でつかみ取ったホーム初勝利だった。

前日の悔しさを糧に修正を施し、2日目でしっかり結果に結びつけた栃木連戦は、Astemo宇都宮ブリツェンの今季の戦い方と結末を象徴する2日間となった。

# 2026シーズン新作グッズ発売中



- トレーナー ¥5,000-  
白・黒、S・M・L・XL
- Tシャツ ¥4,000-  
白・黒、S・M・L・XL
- フードタオル ¥3,300-  
1,200cm×600cm
- フェイスタオル ¥2,500-  
340cm×820cm、全選手・ブリッツェンロゴ・ラヴァーズロゴ
- ステッカーセット ¥1,100-  
210cm×297cm



Astemo  
宇都宮ブリッツェン  
オンラインショップ

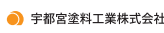
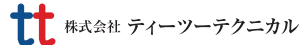


私たちはAstemo宇都宮ブリッツェンを応援しています。

## Astemo



この街を走る幸せを、ともに  
Honda Cars 栃木中央



Thank you for your support.

